



平成22年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年8月12日

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社 上場取引所 JQ NEO
 コード番号 4572 URL <http://www.carnabio.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉野 公一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 相川 法男 TEL (078) 302-7039
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月12日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第2四半期の連結業績 (平成22年1月1日～平成22年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第2四半期	323	1.5	△181	—	△150	—	△157	—
21年12月期第2四半期	318	—	△162	—	△158	—	△162	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年12月期第2四半期	△2,687 36	—
21年12月期第2四半期	△3,049 26	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
22年12月期第2四半期	1,861	—	1,615	—	86.8	27,508 32
21年12月期	2,043	—	1,801	—	88.1	30,680 71

(参考) 自己資本 22年12月期第2四半期 1,615百万円 21年12月期 1,801百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成22年12月期の連結業績予想 (平成22年1月1日～平成22年12月31日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	740	7.7	△344	—	△315	—	△344	—	△5,868 78

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 無

4. その他（詳細は【添付資料】P.4「その他の情報」をご覧ください。）

- (1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無
新規 一社 ()、除外 一社 ()

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

- (3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無
② ①以外の変更 : 無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

- (4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数（四半期累計）

22年12月期2Q	58,710株	21年12月期	58,710株
22年12月期2Q	一株	21年12月期	一株
22年12月期2Q	58,710株	21年12月期2Q	53,270株

(※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了しております。

(※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	6
【第2四半期連結累計期間】	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

※ 当社は、以下のとおり投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料等については、開催後に当社ホームページに掲載する予定です。
 ・平成22年8月16日（月）・・・・・・機関投資家・アナリスト向け決算説明会

※ 上記説明会のほかにも、当社では、個人投資家向けの皆様向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等については、当社ホームページをご確認ください。

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州を中心とした海外景気の下振れ懸念による国内景気の下押しリスクが存在し、雇用情勢は依然厳しいものの、企業収益は徐々に改善し、個人消費は持ち直しの動きが見られ、国内景気の着実な持ち直しの傾向が続いております。

当社グループが属する製薬業界におきましては、主力製品の相次ぐ特許切れなどを背景として、国際的な新薬開発競争が激化しており、また、製薬企業の合従連衡などの業界再編が継続しております。

このような外部環境の中、当社グループは、キナーゼ創薬に係る創薬基盤技術を核とした創薬支援事業並びに創薬事業を積極的に展開し、事業の拡大を図ってまいりました。

事業別で見ますと、創薬支援事業につきましては、研究開発面では顧客ニーズに基づいた製品・サービスの拡充に努めてまいりました。営業面では、国内の市場においては顧客である製薬企業内部での当社製品・サービスの浸透を図るとともに、付加価値の高いサービスの提供により他社サービスとの差別化を図り、顧客との結びつきを強めてまいりました。海外の市場においては、米国及び欧州をカバーする営業担当者を採用することで、新規顧客の開拓に注力してまいりました。また欧州では販売代行会社（Kinase Logistics ApS）との連携による拡販活動を進めてまいりました。他方、創薬事業につきましては、独立行政法人国立がん研究センター等との共同研究及び自社研究プロジェクトを積極的に進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は売上高は323百万円（前年同四半期比1.5%増）、営業損失181百万円（前年同四半期は162百万円の損失）、経常損失150百万円（前年同四半期は158百万円の損失）、四半期損失157百万円（前年同四半期は162百万円の損失）となりました。

事業の種類別セグメントの状況は次の通りです。

①創薬支援事業

キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、プロファイリング・スクリーニングサービスの提供により、創薬支援事業の売上高は309百万円（前年同四半期比3.8%増）、営業利益は52百万円（前年同四半期は51百万円の利益）となりました。売上高の内訳は、キナーゼタンパク質の販売135百万円（前年同四半期比12.4%減）、アッセイ開発26百万円（前年同四半期比50.5%減）、プロファイリング・スクリーニングサービス123百万円（前年同四半期比40.6%増）、その他（リード探索サービス等）24百万円（前年同四半期比1,187.3%増）であります。

②創薬事業

創薬事業の売上高は13百万円（前年同四半期比31.3%減）、営業損失は234百万円（前年同四半期は214百万円の損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期末における総資産は1,861百万円（前連結会計年度末比182百万円減）、負債は246百万円（前連結会計年度末比3百万円増）、純資産は1,615百万円（前連結会計年度末比186百万円減）となり、自己資本比率は86.8%（前連結会計年度末88.1%）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況に関する分析

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により175百万円減少し、投資活動により19百万円減少し、財務活動により37百万円増加した結果、当第2四半期連結会計期間末においては1,333百万円（前連結会計年度末比157百万円減）となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により減少した資金は175百万円（前年同期は316百万円の減少）となりました。これは主に税金等調整前四半期純損失156百万円、売上債権の減少54百万円、未払金の減少55百万円、補助金収入33百万円及び減価償却費29百万円の計上等の差し引きによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により減少した資金は19百万円（前年同期は76百万円の増加）となりました。これは投資有価証券の取得による支出9百万円及び有形固定資産の取得による支出9百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により増加した資金は37百万円（前年同期は発生なし）となりました。これは長期借入れによる収入100百万円、長期借入金の返済による支出12百万円及び担保に供した預金の減少50百万円によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年8月6日に公表いたしました平成22年12月期の業績予想に変更はございません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関しては、該当事項はありません。

記載すべき重要な簡便な会計処理の適用についても、該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、継続して営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（重要事象等）が存在しておりますが、当社グループの事業規模において円滑に事業活動を継続していく上で十分かつ支障がない手元流動性を保有しております。

当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策として、創薬支援事業の売上を伸ばすことで当該事業の利益の上積みを図るとともに、創薬事業における研究開発を更に進め、新薬候補化合物を製薬企業に導出することで当該事業の業績改善を図り、また、研究の効率化や諸経費の抑制等の経費削減に努めることで、早期の全社業績の黒字化を達成するよう取り組んでまいります。

なお、文中の将来に関する事項は、現時点で当社グループが判断したものであります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,083,206	1,290,716
売掛金	72,443	127,104
有価証券	300,000	200,000
商品及び製品	83,667	74,918
仕掛品	20,287	15,566
原材料及び貯蔵品	17,585	12,707
その他	49,058	39,382
貸倒引当金	△19	△32
流動資産合計	1,626,229	1,760,363
固定資産		
有形固定資産	92,854	115,193
無形固定資産	23,605	26,957
投資その他の資産	118,794	141,395
固定資産合計	235,253	283,546
資産合計	1,861,483	2,043,910
負債の部		
流動負債		
買掛金	—	2
1年内返済予定の長期借入金	40,992	7,992
未払金	34,031	88,663
未払法人税等	4,245	5,619
その他	42,405	66,541
流動負債合計	121,674	168,818
固定負債		
長期借入金	124,764	70,010
繰延税金負債	31	3,817
固定負債合計	124,795	73,827
負債合計	246,469	242,645
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,125,632	2,125,632
資本剰余金	673,100	673,100
利益剰余金	△1,156,041	△998,266
株主資本合計	1,642,690	1,800,465
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△21,842	5,578
為替換算調整勘定	△5,834	△4,779
評価・換算差額等合計	△27,677	798
純資産合計	1,615,013	1,801,264
負債純資産合計	1,861,483	2,043,910

(2) 四半期連結損益計算書

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)
売上高	318,805	323,695
売上原価	94,275	102,786
売上総利益	224,529	220,909
販売費及び一般管理費	387,149	402,757
営業損失(△)	△162,619	△181,848
営業外収益		
受取利息	2,822	583
為替差益	319	—
補助金収入	—	33,657
その他	1,012	174
営業外収益合計	4,154	34,414
営業外費用		
支払利息	13	1,039
為替差損	—	2,335
その他	—	153
営業外費用合計	13	3,529
経常損失(△)	△158,479	△150,962
特別損失		
減損損失	3,429	5,639
固定資産除却損	22	—
特別損失合計	3,452	5,639
税金等調整前四半期純損失(△)	△161,932	△156,602
法人税、住民税及び事業税	502	1,172
法人税等合計	502	1,172
四半期純損失(△)	△162,434	△157,774

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△161,932	△156,602
減価償却費	50,976	29,975
減損損失	3,429	5,639
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△424	△12
受取利息	△2,822	△583
支払利息	13	1,039
固定資産除却損	22	—
補助金収入	—	△33,657
売上債権の増減額(△は増加)	△32,362	54,010
たな卸資産の増減額(△は増加)	△26,338	△18,497
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,831	△2
前受金の増減額(△は減少)	△59,728	—
未払金の増減額(△は減少)	△106,129	△55,392
その他	18,285	△9,736
小計	△318,839	△183,819
利息の受取額	2,726	624
利息の支払額	—	△1,171
法人税等の支払額	△1,528	△2,458
法人税等の還付額	1,022	676
補助金の受取額	—	10,410
営業活動によるキャッシュ・フロー	△316,618	△175,738
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△200,000	—
有価証券の売却による収入	200,000	—
有形固定資産の取得による支出	△7,649	△9,083
無形固定資産の取得による支出	△6,699	—
投資有価証券の取得による支出	—	△9,995
差入保証金の回収による収入	6,049	—
定期預金の預入による支出	△115,451	—
定期預金の払戻による収入	200,000	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	76,247	△19,078
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	100,000
長期借入金の返済による支出	—	△12,246
担保に供した預金の増減額(△は増加)	—	△50,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	—	37,754
現金及び現金同等物に係る換算差額	529	△446
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△239,841	△157,509
現金及び現金同等物の期首残高	1,432,132	1,490,716
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,192,291	1,333,206

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)

	創薬支援事業 (千円)	創薬事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結(千円)
売上高					
外部顧客に対する売上高	298,555	20,250	318,805	—	318,805
計	298,555	20,250	318,805	—	318,805
営業利益又は営業損失(△)	51,418	△214,038	△162,619	—	△162,619

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な製品又は事業の内容

- (1) 創薬支援事業…キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発
プロファイリング・スクリーニングサービス
- (2) 創薬事業……キナーゼ阻害薬研究

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)

	創薬支援事業 (千円)	創薬事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結(千円)
売上高					
外部顧客に対する売上高	309,785	13,910	323,695	—	323,695
計	309,785	13,910	323,695	—	323,695
営業利益又は営業損失(△)	52,927	△234,776	△181,848	—	△181,848

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各区分の主な製品又は事業の内容

- (1) 創薬支援事業…キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発
プロファイリング・スクリーニングサービス
- (2) 創薬事業……キナーゼ阻害薬研究

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)

	日本(千円)	北米(千円)	計(千円)	消去又は 全社(千円)	連結(千円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	239,310	79,495	318,805	—	318,805
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	53,916	—	53,916	(53,916)	—
計	293,227	79,495	372,722	(53,916)	318,805
営業利益又は営業損失(△)	△165,080	△37	△165,118	2,498	△162,619

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 北米…米国

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)

	日本(千円)	北米(千円)	計(千円)	消去又は 全社(千円)	連結(千円)
売上高					
(1) 外部顧客に 対する売上高	253,067	70,628	323,695	—	323,695
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	44,639	—	44,639	(44,639)	—
計	297,707	70,628	368,335	(44,639)	323,695
営業損失(△)	△176,429	△5,420	△181,850	1	△181,848

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 北米…米国

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年1月1日 至 平成21年6月30日)

	北米	欧州	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	79,495	36,365	3,052	118,913
II 連結売上高(千円)	—	—	—	318,805
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	24.9	11.4	1.0	37.3

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 (1) 北米…米国、カナダ
 (2) 欧州…デンマーク、ベルギー、英国、スペイン
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年1月1日 至 平成22年6月30日)

	北米	欧州	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	70,628	30,646	25,945	127,219
II 連結売上高(千円)	—	—	—	323,695
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	21.8	9.5	8.0	39.3

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 本邦以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 (1) 北米…米国、カナダ
 (2) 欧州…デンマーク、ベルギー、英国、スペイン
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。